

わが町の予算、家計簿に例えたら？

～過去最大 171.5 億円の使い道～

3月定例会で、令和8年度の一般会計予算が可決されました。総額は171億5,000万円。あまりに大きな数字でピンときませんが、これを「年間の収入が500万円の家庭」に例えると、とんでもないことに…。



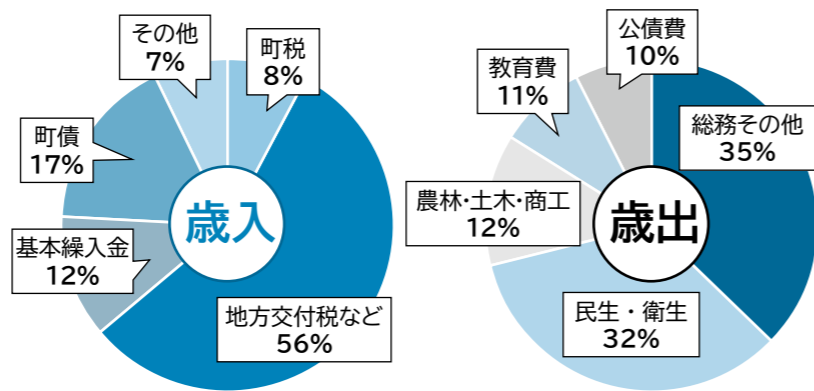
【歳入】どこからお金が入るの？（収入の部）

わが家の「稼ぎ（町税）」は、月々に直すとわずか3万円ほど。家計のほとんどは「仕送り」と「貯金の取り崩し」で成り立っています。



町の収入	金額	家計に例えると	金額
町 税	12.8 億円	家族の稼ぎ	37.3 万円 (月3.1万円)
地方交付税など	96.1 億円	親からの仕送り	280.2 万円
基金繰入金	21 億円	貯金の取り崩し	61.3 万円
町 債	29.9 億円	借金	87.2 万円
そ の 他	11.7 億円	副収入	34 万円

ポイント：自分たちの稼ぎ（町税）は少なく、多くを国の支援などに頼る構造になっています。



【歳出】何にお金を使うの？（支出の部）

家計の中で最も大きいのは「家族のケア代」。今年は大きな「リフォーム」も重なっています。



町の支出	金額	家計に例えると	金額
総務その他	60.1 億円	生活費など	175.2 万円
民生・衛生	54.8 億円	医療・介護・健康	159.8 万円
農林・土木・商工	19.6 億円	家の修理・仕事投資	57.1 万円
教育費	19.3 億円	子どもの学費	56.3 万円
公債費	17.7 億円	ローン返済	51.6 万円

ポイント：支出の約4割は福祉や健康。また、過去のローンの返済もしっかりこなしながら、未来を担う子供たちへの投資や産業振興にもお金を配分しています。

議会の視点

稼ぎが「月3万円」しかない厳しい家計だからこそ、1円も無駄にはできません。「この事業は本当に町民のためになるか？」「将来の世代にツケを回しすぎているか？」議会では、町民の皆さんの目線に立って、予算案を厳しくチェックしています。

注目の新規事業!!!

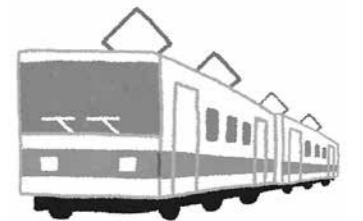
～橋がつかないだ50年、そして次の一步へ。
注目の新規事業を3つ紹介～

1. 「町内在住の高校生を、全力で応援します！」

高等学校等通学支援費給付金事業（660万円）

山口県立大学附属周防大島高等学校（島高）以外の高校へ通う生徒の保護者に、通学定期代のうち、最大5万円を補助します。子育て世代の経済的負担を直接サポートする、町独自の新しい支援です。

※島高への通学支援は、すでに実施しています。



2. 「お母さん・お父さんの『ちょっと預けたい』に応えます」

乳児等通園支援事業（62.5万円）

働いていなくても、時間単位で保育所等を利用できる「こども誰でも通園制度」が始まります。育児のリフレッシュや急な用事の際、誰でも使える安心を届けます。

対象：保育所等に通っていない
3歳未満児



3. 「架橋50年。感謝を込めて、次の半世紀へ」

大島大橋開通50周年記念事業（312万円）

島の命の道「大島大橋」が本年7月4日に開通50周年を迎えます。式典やイベントを通じ、島の絆を再確認し、教育委員会や商工会・観光協会と連携し観光振興や交流の輪を広げます。

内容：記念式典、PR活動、住民参加型イベントの実施

